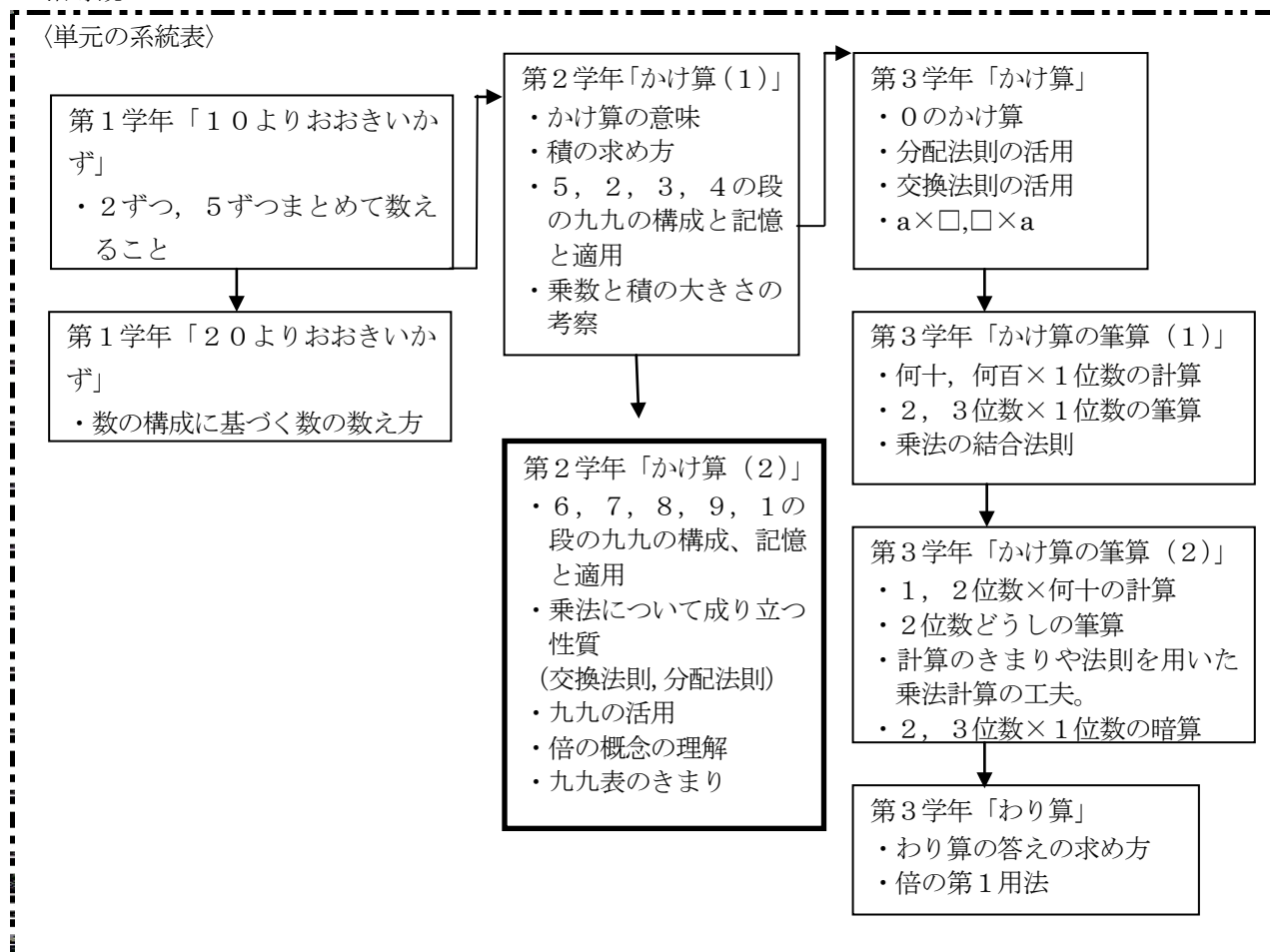


単元名 「かけ算（2）」

1 指導観



- 本単元は、乗法九九（6，7，8，9，1の段）の性質やきまり，構成の仕方を理解し，唱えることができるようになることを主なねらいとしている。具体的には、①乗法九九（6～9，1の段）の構成や計算の仕方を理解すること，②九九表から乗法と積の関係やきまりについて理解すること，③乗法九九を総合的に活用して問題を解決すること，の3点である。

これらのことは、第3学年で学習するかけ算，かけ算の筆算へと発展する内容であり，さらには，除法計算の仕方を考えるもとになることから，意義深い内容と言える。

- 本学級の児童は、「かけ算（1）」の学習において，かけ算の意味が「いくつずつ」の「いくつ分」であることを学習した上で，5の段，2の段，3の段，4の段の九九の構成を理解してきている。5の段，2の段ではかけられる数をかける数の分足し算することで答えを出した。3の段，4の段では，かける数の分足し算を繰り返すだけでなく，前の九九の答えに3や4をたしても答えがでることに気がつき，2つの考えの中で選んで答えを出すことができた。

自分の考えについてはアレイ図を使って隣の席の児童に必ず説明をするようにしており，まだ，アレイ図での2つの考えの違いを区別することができない児童もいるが，繰り返し練習することで少しずつ表現の仕方を学んできている。

(11月 6日 32/33名実施)

	前提内容	問題	結果(正答率/誤答例)	
1	かけ算の意味が分かっているか	5の4つ分を表している式はどれでしょう。 ア 5+4 イ 4+4+4+4 ウ 5+5+5 エ 5×4 オ 4×5 カ 4+5	94%	ア
2	「1あたりの数」×「いくつ分」をとらえて、乗法の式を立式し、答えを求めることができるか。	①りんご2この3皿分 ②だんご3つずつの5本文	① 84% ② 94%	①3×2、 3×3×3×3×3 ②3×4、5×3
3	2の段、5の段、3の段、4の段の九九を理解しているか。	① 2×4 ② 5×8 ③ 3×3 ④ 4×6	①100% ②91% ③94% ④91%	②16、46、 ③9、12 ④12、30、無答
4	乗数と積の関係が分かっているか。	4の段の九九では、かける数が1増えると、答えは□増えます。	93%	1
5	6の段、7の段、8の段の九九を知っているか。	① 6×4 ② 7×8 ③ 8×2	① 94% ② 56% ③ 97%	①12 ②無答、30、42、 46、49、51、 52、54、70 ③18

【前提テストの結果考察】

問題①の結果から、かけ算の意味や立式の仕方についてはほぼ理解していることがわかる。

問題②については、かける数とかけられる数を反対にする解答がみられた。問題①では、選択肢が与えられ、その中から選ぶものであったが、絵から自分で立式すると、まだ「いくつずつ」×「いくつ分」が定着しきれていないと思われる。掲示物で常に目につくようにし、授業中の立式の際にも必ず「いくつずつ」×「いくつ分」を意識させるようにしたい。

問題③については、かけ算(1)の学習に入って2週間あまりだが、かけ算九九への学習意欲が高く、毎日繰り返し練習していることで定着してきている児童が多いことがわかる。

問題④については、問題文の意味を理解しきれていない児童がいた。また、「かける数」や「かけられる数」という言葉がまだ定着しきれていないことでの躓きが考えられる。これについては、学習中に繰り返し式の数字と言葉をつなげて押さえることで定着させていきたい。

問題⑤は未習であるが、かけ算の意味が理解できていれば自力解決も可能な問題である。①と③は正答率が高いことがわかる。これは、かける数が小さいので、かけられる数を繰り返し足し算しても途中で計算間違いをすることが少ないということと、かける数とかけられる数を入れ替えても答えが同じだと気づいている児童がすでに数名おり、既習の4の段、2の段から答えを見つけ出したということが考えられる。しかし、②の7×8はかける数が大きいため、7を繰り返したし算していく途中で計算間違いをしていたり、8の段が未習であるため、かける数とかけられる数を入れ替えても答えを見つけ出すことができなかつたりしたことが原因と思われる。ただ、問題⑤において、9割以上の児童が、かけ算の考え方を生かして、未習のかけ算を解決しようとする姿が見られたことで、かけ算の構成について理解できていることがわかった。

かけ算(2)では、かけられる数が大きく、答えも大きくなるので混乱する児童が出てくることが予想されるが、すでに、かける数とかけられる数を入れ替えても答えが同じであることに気づき始めている児童もいるので、

交換法則が児童の思考に自然に定着できるようなアレイ図での表し方を工夫し、以降の6, 7, 8, 9の段の学習へとつなげていきたい。

○本単元の指導にあたっては、

低学年部の研究仮説「思考活動④⑤において、『少人数による交流活動、板書・発問の工夫、学習内容を確認するための類似問題の工夫を行えば、考えを伝え合うことができ、思考活動の活性化を図ることができるであろう。』をうけて、次のような手だてを、単元を通して行う。

思考活動①（問いを生み出す思考活動）を活性化させるため、児童の身近なものから、かけ算の問題を作り、板書には具体物や絵を提示し、問題場면을視覚的にも理解できるようにする。また、既習掲示物で振り返りながら、本時学習との相違点を押さえ、学習の見通しを持てるようにする。かけ算九九を自分たちで作ら出そうという意欲を出させるために、かけ算のきまりにも、既習掲示物から気づかせたい。

思考活動②（解決への見通しをもつ思考活動）を活性化させるため、既習を振り返ることができる掲示物の工夫を行う。既習の九九のアレイ図や、かけられる数ずつ増える、または、かける数が1増えると前の答えよりかけられる数だけ増える、という、九九の構成についての掲示物から、九九を作り出す手助けになると考える。

思考活動③（考えをつくる思考活動）を活性化させるため、見通しで出されたものの中のどのやり方で考えるのかを自己選択・決定した上で考えを作らせる。そのことによって考えが整理され、自力解決がしやすくなると考える。また、自力解決が困難な児童には、自分で色をぬるアレイ図カードやタイルを渡し、九九の構成を、操作しながら考えることで自力解決へと導きたい。

思考活動④（より確かな考えをもつ思考活動）を活性化させるため、自分の考えを伝え合う少グループでの交流を行う。考えを伝える際は、クイズ形式にする。自分の考えを相手に伝える際に、九九の中の一つだけをクイズとして出して相手に答えてもらい、最後にどの考え方を使ったかも答えてもらうようにする。既習の九九の構成（かける数ずつ増やす・前の積にかけられる数を足す・かける数とかけられる数を反対にした式の答えを探す）にはそれぞれ名前を自分たちでつけて共通理解をし、教室に掲示しておくことで自力解決へと促す。また、相手から考えを聞いた児童は、自分の考えと比較し、相違点を見つけ、同じだったら「同じです。」違うときは「わかりました。」という返事をする。このことによって、考えの強化・異同を明確にさせることができるであろう。

全体交流の際には、「正しく早く簡単」な考え方について、それぞれの良さを話し合う。そのことによって、単元後半においてかけられる数が大きくなったときに、より効率的に答えを見つけだせる考えはどれかという意識を持たせることができるようにしたい。

思考活動⑤（考えをまとめ振り返る思考活動）を活性化させるため、本時でまとめた考えを使って類似問題を解く。既習の九九表から、それぞれの九九と答えを確認し、本時のまとめをより確かなものとする。

2 目標

乗法の意味について理解し、それをを用いることができる。

(1) 関心・意欲・態度

乗法九九のよさに気づき、ものの個数をとらえる時に進んで用いようとする。

乗法について成り立つ性質を用いて九九を構成しようとする。

九九表を用いたり、乗法九九を見直したりして乗法について成り立つ性質やきまりを進んで見つけようとする。

(2) 数学的な考え方

乗法について成り立つ性質を用いて、乗法九九の構成のしかたについて多様に考える。

九九表から、被乗法、乗法、積の関係や交換法則などの乗法について成り立つ性質やきまりをとらえる。

(3) 表現・処理

乗法九九（6, 7, 8, 9, 1の段）を構成し、確実に唱えることができる。

(4) 知識・理解

乗法九九について成り立つ性質や乗法のきまりを理解する。

乗法九九（6, 7, 8, 9, 1の段）の構成のしかたを理解する。

整数倍の定義について理解する。

3 単元計画（全18時間）

時	学習活動	主な支援	主な評価基準
(1) 乗法（6, 7の段）の九九の構成 6時間			
1 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 6の段の九九の構成のしかたについて考える。 ○ 累加や乗法と積の関係など既習を活用して、6の段の九九を構成する。 ○ 九九表やアレイ図などをもとにして、交換法則が成り立つことに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 既習から考えを作りやすいように、既習の振り返りをする。 	<p>関 乗法について成り立つ性質などを多様に用いて九九を構成しようとしている。</p>
2 ・ 3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 6の段の九九を唱えたり、カードを用いて練習をしたりする。 ○ 6の段の九九を見直し、九九表やアレイ図などをもとにして、交換法則が成り立つことを確認する。 ○ 練習問題を解決する。 ○ 6の段の九九から、分配法則が成り立つことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 乗法と積の関係を押さえながら、唱える練習をする。 ○ 九九表やアレイ図などを提示し、交換法則が説明できるように、それぞれでもノートに図や言葉で書くようにする。 ○ 提示された九九表やアレイ図などから6の段の九九(6×3)の答えと4の段(4×3)、2の段の九九(2×3)の答えを足した数になっていることに気付かせる。 	<p>考 6の段の九九の構成を見直しながら、乗法について成り立つ性質を考えている。</p> <p>表 6の段の九九を唱えることができ、それを用いて身の回りの問題を解決することができる。</p>
4 5 ・ 6	<ul style="list-style-type: none"> ○ 7の段の九九の構成のしかたについて考える。 ○ 累加や積と乗数の関係に加え、交換法則など既習を活用して、7の段の九九を構成する。 ○ 7の段の九九を唱えたり、カードを用いて練習をしたりする。 ○ 7の段を見直し、九九表やアレイ図などをもとにして、交換法則が成り立つことを確認する。 ○ 練習問題を解決する。 ○ 7の段の九九から、分配法則が成り立つことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 問題場面を把握しやすいように黒板に図を提示しておく。 ○ 既習から考えを作りやすいように九九表やアレイ図の振り返りをする。 ○ 乗法と積の関係を押さえながら唱える練習をする。 ○ 九九表やアレイ図などを提示し、交換法則が説明できるように、それぞれでもノートに図や言葉で書くようにする。 ○ 6の段(6×3)のときのことをもとに、九九表やアレイ図を見ながら、7の段でも5の段と2の段、3の段と4の段の答えを足した数になっていることに気づかせる。 	<p>関 乗法について成り立つ性質などを多様に用いて九九を構成しようとしている。</p> <p>考 7の段の九九の構成を見直しながら、乗法について成り立つ性質を考えている。</p> <p>表 7の段の九九を唱えることができ、それを用いて身の回りの問題を解決することができる。</p>

(2) 乗法 (8, 9, 1の段) の九九の構成		4時間	
7	<ul style="list-style-type: none"> ○ 8の段の九九の構成のしかたについて考える。 ○ 既習の考え方を活用して、いろいろな方法で8の段, 9の段の九九を構成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 既習から考えを作りやすいように、既習掲示物から、学習の振り返りをする。 ○ 自分の考えはノートに図や言葉で書かせる。 	考 既習の九九について成り立つ性質が8の段, 9の段でも成り立つことを予測して, 8の段, 9の段の九九の構成のしかたを考えている。
8 9	<ul style="list-style-type: none"> ○ 8の段, 9の段の九九を唱えたり, カードを用いて練習をしたりする。 ○ 練習問題を解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ゲームや友だちとの言い合いっこをしながら九九を唱える練習をする。 	表 8の段, 9の段の九九を唱えることができ, それを用いて身の回りの問題を解決することができる。
10	<ul style="list-style-type: none"> ○ 場面をとらえ, 1×6の式からかけ算の意味を確かめる。 ○ 1の段の九九を唱えたり, カードを用いて練習をしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 問題場面を把握し, 立式しやすいように動作化をする。 	表 1の段の九九を唱えることができる。
(3) 倍と乗法の意味 2時間			
11	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「ばい」の表現を知り, それを用いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見通しを持ちやすいように, 元になる長さを, 4倍分の長さのテープに重ねて, 倍とはどのようなことかを理解させる。 	関 倍の意味を理解し, それを用いようとしている。
12	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3cmの2倍の長さの求め方について考え, 3cmの2倍の長さが6cmであることも, $3 \times 2 = 6$と書くことを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 元になるテープ(3cm)が, 2つ分で6cmになることがわかるようなテープを操作する。 	知 ある量の何倍かにあたる量を求めるときもかけ算を用いることを理解している。 表 倍を用いて問題を解決することができる。
(4) 九九の表ときまり 2時間			
13	<ul style="list-style-type: none"> ○ 九九表を見て, これまで九九の構成で用いた乗数と積の関係や交換法則が成り立つことを確認する。 ○ 九九表を見て, これまで九九の構成で用いた情報の交換法則が成り立っていることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 既習掲示物を見て, 交換法則や分配法則について押さえた上で学習に入るようにする。 	考 各段の九九を構成するときに用いた性質を乗法の性質としてとらえ直している。 知 乗数と積の関係や, 被乗数を入れかえても積は変わらないことを理解している。
14	<ul style="list-style-type: none"> ○ 九九表を見て分配法則を確認し, 学習してきたきまりを活用して, 被乗数が2位数のかけ算について答えの求め方を考えたり, 答えを求めたりする。 		
(5) 乗法の活用 2時間			

15	○ 切手の写真を見て、それらの個数のいろいろな求め方を考える。 ○ それぞれの考えを発表し、検討する。	○ いろいろな考えを、ノートに書き、隣同士で考えを出し合ったあとに、全員の前でも発表するようにする。	考 ものの数の求め方を、かけ算を活用して多様に考えている。
16	○ チョコレートの数のいろいろな求め方を、図を元に考える。 ○ それぞれの考えを発表し、検討する。	○ 切手やチョコレートの具体物を操作して考えさせる。	考 ものの数の求め方を、かけ算を活用し、工夫して考えている。
(6) 乗法計算の定着 2時間			
17 18	○ 「力をつけよう」の練習問題に取り組む。 ○ 「たしかめよう」の練習問題に取り組む。 ○ 「ものしりコーナー」を読み、九九の由来について関心をもつ。	○ 適宜学習内容を振り返ることができるようにするために、既習掲示物を用意しておく。	表 既習を正しく用いて、問題を解決することができる。 知 基本的な学習内容について理解している。

4 本時の目標

本時の評価規準① 九九表やアレイ図を元にして交換法則が成り立つことや、その有用性に気づく。

本時の評価規準② 既習を生かして、6の段の九九を構成し、自分の考えを図や式、言葉で表現し、答えをどのように導き出したかをわかりやすく説明することができる。

5 本時指導の考え方

本時授業仮説

思考活動④⑤の段階において、以下のような交流活動の工夫を行えば、友だちの考えを理解し、考えを伝え合うことができ、思考活動が活性化するのであろう。

- 自分の考えを確かめたり、友だちの考えを理解したりするための少グループでの交流活動
- 思考を整理しやすくする板書の工夫と、思考を整理しつなげるための発問の工夫

本時では、既習を元にして、さまざまな考えを出し合い、九九(6の段)の構成について、乗数が1つ増えると、積も6ずつ増えることに気づくことや、九九表などを元にして交換法則が成り立っていることに気づくことを主なねらいとしている。そのために、以下のような算数的活動の工夫を行い、思考活動の活性化を図る。

【思考活動① 問いを生み出す思考活動】では、6個入りのアイスが全部でいくつあるかを求めるためには、という問題から、既習よりもかけられる数が多いことに気づかせ、数が多いときに、速くて簡単に答えを出す方法はないかという問いをもつようにする。そのために、導入段階でのかけられる数の6に着目し、積も大きくなるだろうということにも触れる。

【思考活動② 解決への見通しを持つ思考活動】では、6の段をつくるために、既習を工夫して、かける数の分だけ6をたしていき、又は、前の式の答えに6をたして答えを出す、ということができないかという見通しを持たせる。また、既習の2～5の段の九九表から、交換法則で6の段の答えを出せるのではないかと、という考えが出たら、それも見通しとしてあげる。

【思考活動③ 考えをつくる思考活動】では、今までの計算のしかたを振り返り、かける数ずつの足し算をしていく方法と、前の式の積にかけられる数の分を足す方法を確認し、それぞれのやり方を、どのように活用したら6の段の九九ができるかを学習プリントに式や言葉でまとめさせる。また、考えを書き終えたら、児童用のアレイ図を動かしながら考えを説明する練習をするように声をかける。

【思考活動④ より確かな考えをもつ思考活動】では、より確かな考えを持つことができるように、思考活動③の自分の考えを、隣の席の児童に説明する交流活動を取り入れる。九九が未完成な子に対しては、できているところまでの考えを言うようにする。

その際、6の段の中で1問はクイズ形式にして、隣の人に答えを出してもらおう。そのことによって、自分の考えを説明するだけでなく、自分の考え方で他の人が本当に答えを正しく速く簡単に出すことができるかに気づくと考える。

さらに、友だちの考えを聞いた児童は、自分の考えと比較し、同じなら『同じです。』違うなら『わかりました。』と

答えるようにし、お互いの考えの相違点を明確にする。

その後、全体交流を行う。全体交流では、まず既習から確実な考え方となっている、「かける数の分を足し算していく方法」と、「前の九九の積にかけられる数の分をたす方法」で6の段の答えを確認する。そして、新しい考え方として、「かけられる数とかける数を反対にして答えを出す方法」について、かけ算の考え方として利用してもよいと思う理由を、 6×4 を例にそれぞれ考え、全体で話し合う。

【思考活動⑤ 考えをまとめ、ふり返る思考活動】では、どの考えでも6の段をつくることができたということを押さえ、既習に加え、かけられる数とかける数を反対にして答えを出す方法もこれからは使えるということをもとめとする。さらに、本時まとめを確かなものにするために、類似問題で未習の 7×3 について交換法則で答えを見つけさせ、次時へとつなげるようにしたい。

このような一連の流れが、子どもたちの思考活動を活性化させ、既習を用いて新たな数理を見つけるおもしろさや算数の有用性を感じることに繋がると考える。

6 準備

○ 教師：既習掲示物、学習プリント、 6×4 用学習プリント、アレイ図（教師用・児童用）既習の九九表

7 学習指導過程（1 / 18）

学習活動と内容	支援（『発問』、*主な支援）	評価基準	時
<p>1. 本時学習問題を知り、めあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>学習問題</p> <p>1はここに $6 \square$ ④⑤ 入っている アイスが、() は □ あります。</p> <p>アイスは、④⑤⑥⑦ いくつあるでしょう。</p> </div> <p>しき $6 \times \square$</p> <p>【思考活動① 問いを生み出す思考活動】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○ 1はここに 入っている数が 大きい。</p> <p>○ 今までのかけ算の考え方をを使って答えは 出せないかな…。</p> </div> <div style="text-align: center; margin: 5px 0;"> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>めあて</p> <p>6のだんの九九をくふうして作ろう。</p> </div>	<p>* 問題の場面がイメージできるように、アイスの模型を提示して、かけ算についての学習であることがつかめるようにする。</p> <p>『\squareの中の数字が1～9のとき、アイスは全部でいくつになるかを考えるための式はどのようなでしょう。』</p> <p>『今日は何の段の計算になるでしょう。』</p> <p>* 文章問題のかけられる数6を押さえ、今までよりも積の数が大きくなりそうなことに気づかせる。</p> <p>* 掲示物より、既習を生かして6の段を考えられるのではないかという問いを持たせる。</p> <p>* 足し算をしていく方法と、前の答えに6をたす方法、交換法則から答えを探す方法のどれでやってみるか自己選択してから取り組むようにする。</p>	<p>既習を生かして、6の段をつくる見通しを持っている。</p> <p style="text-align: right;">（発言）</p>	10
<p>2. 解決への見通しを持つ。</p> <p>【思考活動② 解決への見通しをもつ思考活動】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○ 6の段の九九も、今までのかけ算のきまりを使って、考えられないかな。</p> <p>○ 6ずつたしていけばいいんじゃないか。</p> <p>○ かける数が1つ増えると、前の答えに6をたしていけばいいんじゃないかな。</p> </div>	<p>『今までのかけ算九九の考え方をもとにして、6の段の九九を作ってみましょう。』</p>		10
<p>3. 立てた見通しをもとに解決をはかる。</p> <p>【思考活動③ 考えをつくる思考活動】</p> <p>(1) 6の段の九九の考えをつくる。</p>			

<p>○ かける数の6を足していく方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ $6 \times 1 = 6$ ・ $6 \times 2 = 6 + 6 = 12$ ・ $6 \times 3 = 6 + 6 + 6 = 18 \dots$ ・ $6 \times 9 = 6 + 6 + 6 + 6 + 6 + 6 + 6 + 6 + 6 + 6 = 54$ 	<p>* 考えは、学習プリントに図や式、言葉で表すようにする。</p>	<p>既習を生かして、6の段の九九を自力で構成しようとしている。(操作、学習プリント)</p>	
<p>○ 前の積に6をたす方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ $6 \times 1 = 6$ ・ $6 \times 2 = 12 \leftarrow 6 + 6$ ・ $6 \times 3 = 18 \leftarrow 12 + 6 \dots$ ・ $6 \times 9 = 54 \leftarrow 48 + 6$ 			
<p>○ 交換法則をつかう方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ $6 \times 1 = 6$ ・ $6 \times 2 \rightarrow 2 \times 6 = 12$ ・ $6 \times 3 \rightarrow 3 \times 6 = 18$ ・ $6 \times 4 \rightarrow 4 \times 6 = 24$ 			
<p>4. 少グループでの交流から全体交流を行い、解決方法について話し合う。</p>	<p>* 自分の考えを整理し、見直すことができるように、少グループでの交流(隣の席の児童)を行う。</p>		15
<p>【思考活動④ より確かな考えをもつ思考活動】</p>	<p>* 自分の考えを説明する際、1カ所だけはクイズにして、聞いている人に答えを出してもらおうようにする。</p>		
<p>(1) 少人数交流を行う。</p>	<p>* 相手の考えを聞いた児童は、出されたクイズに答えた上で、自分の考えと比較し、同じだったら、「同じやりかたです。」違う考えだったら、「わかりました。」と返事をする。</p>		
<p>・自分の考えを説明したり、相手の説明を聞いたりすること。</p>	<p>* 全体交流で出されたAとBの考え方を見比べて、どちらも既習のかけ算の考え方を生かしていることを全体で確認する。</p>	<p>A: 6の段の九九を構成するために、相手の考えを利用して答えを出し、相手の考えと自分の考えを比較することができる。</p>	
<p>Aの考え かける数の6を足していく方法 たしかけ算 6×1は6 $6 \times 2 = 6 + 6$で12 $6 \times 3 = 6 + 6 + 6$で18… では、$6 \times 9 = 6 + 6 + 6 + 6 + 6 + 6 + 6 + 6 + 6$です。答えは何でしょう。</p>	<p>* Cの考えを確認するために実際に操作活動を行うことができるアレイ図を準備する。</p>	<p>B: 6の段の九九を構成するために、相手の考えがどの考え方かを理解することができる。 (表現)</p>	
<p>Bの考え 前の積に6をたす方法 とびたしかけ算 6×1は6 6×2は6 + 6で12 $6 \times 3 = 12 + 6$で18… $6 \times 9 = 48 + 6$です。答えは何でしょう。</p>			
<p>(2) 全体交流を行う。</p>			
<p>①AとBの考えについて説明し、全体で確認する。</p>			
<p>②Cの考えを発表させて、考える。</p>			

<p>Cの考え 交換法則を使う方法</p> <p>6×1は6</p> <p>6×2は2×6と同じだから12</p> <p>6×3は3×6と同じだから18</p> <p>6×4は4×6と同じだから24</p> <p>6×5は5×6と同じだから30</p> <p>6×6は$6 \times 5 = 30$に6をたして36...</p>	<p>* Cの交換法則の説明をアレイ図を使って説明させ、児童から出なかった場合には、教師がアレイ図の向きを変えて交換法則が成り立つことを説明する。</p>		
<p>5. 本時学習をまとめ、ふりかえる。</p> <p>[思考活動⑤] 考えをまとめ、振り返る思考活動</p> <p>(1) 6の段の九九についてまとめる。</p> <div data-bbox="175 627 710 761" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ</p> <p>九九をつくるためには、かけられる数とかける数をはんたいにするほうほうもつかえる。</p> </div> <p>(2) 類似問題を解く。</p> <p>(3) 「今日の学習で」を書く。</p>	<p>* より効率的な考え方について触れ、今後の、7, 8, 9の段の九九へつなげる。</p> <p>* 類似問題として未習の7×3の答えを交換法則で探し、アレイ図で確認する。</p>	<p>交換法則の有用性に気づく。(発言)</p> <p>九九表に関心を持ち、交換法則がなりたつことを理解している。</p>	10

8. 板書計画

